

## 医薬品に共通する特性と基本的な知識

問1 医薬品の販売に従事する専門家の態度に関する次の記述について、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 医薬品の有効性、安全性等に関する情報は変更されることはないので、情報収集は新発売の商品についてだけ行っている。
- 2 不良医薬品の発生により製造販売業者が製品回収を開始したので、店舗内に該当する商品があるかどうかをチェックするなど、回収措置に協力した。
- 3 セルフメディケーションの主役は、一般用医薬品の販売に従事する専門家であり、購入者等に対して正確な情報提供を行うことが求められる。
- 4 医薬品の購入者から、購入した医薬品の使用方法について相談があったが、相談には応じなかった。

問2 医薬品の本質に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から  
選びなさい。

- a 医薬品が人体に及ぼす作用は、そのすべてが解明されているわけではないため、  
好ましくない反応（副作用）を生じる場合もある。
- b 医薬品は、人の疾病の診断及び治療等に使用されるが、人の身体の構造に影響  
を及ぼす目的では使用されない。
- c 検査薬を使用した場合、その検査結果について正しい解釈がなされなければ、  
医療機関を受診して適切な治療を受ける機会を失うおそれがある。
- d 医薬品は、効能効果、用法用量、副作用等の必要な情報が適切に伝達されるこ  
とを通じて、購入者が適切に使用することにより、初めてその役割を十分に発揮  
する。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問3 一般用医薬品の薬事法上の定義に関する次の記述について、( ) の中に  
入れるべき字句の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

「医薬品のうち、その ( a ) において人体に対する作用が ( b ) もの  
であって、薬剤師その他の医薬関係者から提供された情報に基づく ( c ) によ  
り使用されることが目的とされているもの」(薬事法第25条第1項)

下欄

	a	b	c
1	効能及び効果	著しい	需要者の選択
2	効能及び効果	著しくない	需要者の選択
3	効能及び効果	著しくない	専門家の選択
4	用法用量	著しくない	需要者の選択
5	用法用量	著しい	専門家の選択

問4 次の字句について、一般用医薬品の役割として適切なものを「正」、適切でな  
いものを「誤」として、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 軽度又は重度の疾病に伴う症状の改善
- b 健康の維持・増進
- c 生活習慣病等の疾病に伴う症状発現の予防
- d 衛生害虫の防除

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	正	正

問5 スモン訴訟に関する次の記述について、( )に入れるべき字句の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

( a ) として販売されていた ( b ) を使用したことにより、( c ) に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。スモンはその症状として、初期には腹部の膨満感から激しい腹痛を伴う下痢を生じ、次第に下半身の痺れや脱力、歩行困難等が現れる。麻痺は上半身にも広がる場合があり、ときに視覚障害から失明に至ることもある。

下欄

	a	b	c
1	整腸剤	キノホルム製剤	亜急性脊髄視神経症
2	解熱鎮痛剤	キノホルム製剤	クロイツフェルト・ヤコブ病
3	解熱鎮痛剤	キノホルム製剤	亜急性脊髄視神経症
4	解熱鎮痛剤	サリドマイド製剤	クロイツフェルト・ヤコブ病
5	整腸剤	サリドマイド製剤	亜急性脊髄視神経症

問6 HIV及びHIV訴訟に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 ヒト免疫不全ウイルスのことをHIVという。
- 2 HIV訴訟とは、血友病患者がHIVの混入した原料血漿から製造されたアルブミン製剤の投与を受けたことにより、HIVに感染したことに対する損害賠償訴訟である。
- 3 HIV訴訟の和解を踏まえ、国は、HIV感染者に対する恒久対策として、拠点病院の整備や治療薬の早期提供等の取組みを推進している。
- 4 HIV訴訟を契機に、血液製剤の安全確保対策の1つとして、献血時の問診の充実が図られた。

問7 医薬品の品質に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から  
選びなさい。

- a 医薬品の場合、製品に表示されている「使用期限」内であれば、開封状態で保管しても必ず品質が保持される。
- b 医薬品を保管・陳列する場所について、高温、多湿を避けられる場所であれば、直射日光が当たる場所であっても問題はない。
- c 薬事法では、その全部又は一部が不潔な物質又は変質若しくは変敗した物質から成っている医薬品の販売や授与が禁止されている。
- d 一般用医薬品では、購入された後すぐに使用されるとは限らないことから、使用期限から十分な余裕をもって販売がなされることも重要である。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	正

問8 医薬品のプラセボ効果（偽薬効果）の説明に関する次の記述について、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 プラセボ効果は、生体内で有効成分が発揮する薬理作用の一部である。
- 2 プラセボ効果は、医薬品を使用したこと自体による楽観的な結果への期待（暗示効果）等が関与して生じると考えられている。
- 3 プラセボ効果によってもたらされる反応や変化として、不都合なもの（副作用）は生じない。
- 4 プラセボ効果による変化は、客観的に測定可能であるため、プラセボ効果を目的として医薬品を使用することは適切である。

問9 医薬品の副作用に関する次の記述について、( )に入れるべき字句の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

世界保健機関の定義によれば、医薬品の副作用とは、「疾病の予防、診断、治療のため、又は身体の機能を正常化するために、人に ( a ) で発現する医薬品の ( b ) かつ ( c ) 反応」とされている。

下欄

	a	b	c
1	通常用いられる量	有害	意図しない
2	通常用いられる量	過敏	重篤な
3	最大用いられる量	有害	意図しない
4	最大用いられる量	過敏	意図しない
5	通常用いられる量	有害	重篤な

問10 医薬品の副作用に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 医薬品による副作用は、すべてその有効成分又は添加剤に対する過敏反応（アレルギー）によって発現する。
- 2 医薬品を使用してアレルギーを起こしたことがある人は、その原因となった医薬品の使用を避ける必要がある。
- 3 医薬品を使用する人が副作用をその初期段階で認識することは、副作用の重篤化の回避に重要である。
- 4 副作用は、明確な自覚症状として現れるものばかりではないので、継続して使用する場合、定期的に検診を受けるよう、医薬品の販売に従事する専門家から促していくことも重要である。

問 11 医薬品と飲食物の相互作用に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 酒類（アルコール）をよく摂取する者では、肝臓でのアセトアミノフェンの代謝機能が低下していることが多い。
- b 生薬成分の中には、医薬品的な効能効果が標榜又は暗示されていなければ、食品（ハーブ等）として流通可能なものがあり、そうした食品を合わせて摂取すると、生薬成分が配合された医薬品の効き目や副作用を増強させることがある。
- c 鉄製剤を服用する場合、服用の前後30分は、タンニン酸を含む飲食物（緑茶、紅茶、コーヒー、ワイン、柿等）の摂取を控えることとされている。
- d 制酸成分を主体とする胃腸薬は、炭酸飲料や酸度の高い食品と一緒に服用することは適切ではない。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	正

問 12 次の漢方製剤のうち、インターフェロン製剤で治療を受けている人は使用を避ける必要があるものを1つ選びなさい。

- 1 葛根湯
- 2 小柴胡湯
- 3 麻黄湯
- 4 小青竜湯
- 5 麦門冬湯

問 13 小児への医薬品の使用に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 医薬品の使用上の注意等において「小児」という場合には、おおよその目安として15歳未満を指す。
- b 成人用の医薬品を半分にして飲ませれば、特に有害事象につながる危険性はない。
- c 吸収されて循環血液中に移行した医薬品の成分が脳に達しやすいため、中枢神経系に影響を与える医薬品で副作用を起こしやすい。
- d 医薬品が喉につかえると、大事に至らなくても咳き込んで吐き出し苦しむことになり、その体験から乳幼児に医薬品の服用に対する拒否意識を生じさせることがある。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	正

問14 ライ症候群の発生との関連性が示唆されていることから、小児に対して使用しないこととされている医薬品成分を、次の中から1つ選びなさい。

- 1 イブプロフェン            2 アスピリン            3 イソプロピルアンチピリン
- 4 アミノ安息香酸エチル        5 カフェイン



問 15 高齢者への医薬品の使用に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 医薬品の使用上の注意等において「高齢者」という場合には、おおよその目安として75歳以上を指す。
- b 医薬品の副作用で口渇を生じた場合、誤嚥を誘発しやすくなる。
- c 基礎疾患を抱えていることが多いので、一般用医薬品の使用によって基礎疾患の症状が悪化する場合があることに注意が必要である。
- d 生理機能の衰えにより副作用を生じるリスクが高いため、一般用医薬品を使用する場合は、定められた用量の半分程度に量を減らすことが望ましい。

下欄

- 1 (a、b)    2 (a、d)    3 (b、c)    4 (c、d)

問16 鶏卵にアレルギーがある人が避けるべき医薬品成分を、次の中から1つ選びなさい。

- 1 タンニン酸アルブミン      2 ポビドンヨード      3 メキタジン
- 4 臭化ブチルスコポラミン    5 塩化リゾチーム

問 17 妊婦や授乳婦における医薬品の使用に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 胎盤には、胎児の血液と母胎の血液が混ざらない仕組みがあり、これを血液脳関門という。
- b 医薬品の種類によっては、体に吸収された医薬品の成分の一部が乳汁中に移行することがある。
- c ビタミンA含有製剤では、妊娠前後の一定期間に通常の用量を超えて摂取すると胎児に先天異常を起こす危険性が高まるとされている。
- d 膨潤性瀉下成分が配合された瀉下薬は一般に、腸の急激な動きに刺激されて流産・早産を誘発するため、妊婦は使用を避ける必要がある。

下欄

- 1 (a、b)    2 (a、d)    3 (b、c)    4 (c、d)

問 18 次の瀉下成分のうち、添付文書に「授乳中の人は本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避ける」旨が記載される要因となる成分でないものを1つ選びなさい。

- 1 センナ            2 ダイオウ            3 ヒマシ油            4 センノシド
- 5 水酸化マグネシウム

問 19 以下の表は、A欄に「基礎疾患等」、B欄に「服用（使用）してはならない成分・薬効群」を記載したものである。一般用医薬品においてA欄とB欄の関係が正しいものの組み合わせを下欄から1つ選びなさい。

	A欄	B欄
a	胃潰瘍	水酸化アルミニウムゲル
b	低血圧	塩酸プソイドエフェドリン
c	不眠症の診断を受けた人	抗ヒスタミン成分を主薬とする 催眠鎮静薬（睡眠改善薬）
d	透析療法を受けている人	スクラルファート

下欄

- 1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、d)    4 (c、d)

問 20 医薬品の不適正な使用に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 青少年は、薬物乱用の危険性に関する認識や理解が必ずしも十分でなく、好奇心から身近に入手できる薬物を興味本位で乱用することがあるので、注意が必要である。
- b リン酸ジヒドロコデインは、長期連用や大量摂取によって倦怠感や虚脱感、多幸感等が現れることがあり、薬物依存につながるおそれがある。
- c カフェインは、飲食物にも含まれている成分であり、習慣性・依存性は有しない。
- d 薬剤師や登録販売者は、必要以上の大量購入や頻回購入などを試みる不審な購入者等には、慎重に対処する必要がある。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	正

## 主な医薬品とその作用

問 21 かぜ及びかぜ薬に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 「かぜ」は単一の疾患ではなく、医学的にはかぜ症候群という。主にウイルスが鼻や喉などに感染して起こる様々な症状の総称である。
- b かぜ薬は、ウイルスの増殖を抑え、体内から取り除くもので、総合感冒薬とも呼ばれる。
- c インフルエンザ（流行性感冒）は、かぜと同様、ウイルスの呼吸器感染によるものであり、感染力は強いが重症化することはない。
- d インフルエンザの流行期において、小児用かぜ薬を販売する場合は、解熱鎮痛成分がアセトアミノフェンや生薬成分のみからなる製品の選択を提案することが重要である。

下欄

- 1 (a、b)    2 (a、d)    3 (b、c)    4 (c、d)

問 22 かぜ薬に配合される次の成分のうち、痰の切れを良くする目的で配合されるものの正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 塩酸ブロムヘキシン
- b エテンザミド
- c 塩酸エチルシステイン
- d フマル酸クレマスチン

下欄

- 1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、d)    4 (c、d)

問 23 痛みや発熱が起こる仕組み、解熱鎮痛薬の働きに関する次の記述について、  
誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 痛みや発熱は、体内で産生されるプロスタグランジンの働きによって生じる。
- 2 解熱鎮痛薬は、痛みや発熱の原因となっている病気や外傷自体を治すことができる。
- 3 腹痛を含む痙攣性の内臓痛については、一部の漢方処方製剤を除き、解熱鎮痛薬の効果は期待できない。
- 4 月経痛（生理痛）は、月経そのものが起こる過程にプロスタグランジンが関わっていることから、解熱鎮痛薬の効能・効果に含まれる。

問 24 アスピリンに関する次の記述について、( ) の中に入れるべき字句の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

アスピリンは、別名（ a ）といい、（ b ）解熱鎮痛成分であり、他の解熱鎮痛成分に比べて胃腸障害が（ c ）とされている。

下欄

	a	b	c
1	アセチルサリチル酸	ピリン系	起こりやすい
2	イソプロピルアンチピリン	サリチル酸系	起こりにくい
3	アセチルサリチル酸	サリチル酸系	起こりにくい
4	アセチルサリチル酸	サリチル酸系	起こりやすい
5	イソプロピルアンチピリン	ピリン系	起こりにくい

問 25 解熱鎮痛薬に配合される成分に関する次の記述について、記述と成分の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 解熱鎮痛成分の鎮痛作用を助ける目的で配合されることがある鎮静成分である。
- b 解熱鎮痛成分による胃腸障害を低減させることを目的として配合される成分である。
- c 解熱鎮痛成分の鎮痛作用を高める効果を期待したり、中枢神経系を刺激して頭をすっきりさせる目的で配合される成分である。

下欄

	a	b	c
1	ブロムワレリル尿素	ケイ酸アルミニウム	カフェイン
2	ブロムワレリル尿素	コンドロイチン 硫酸ナトリウム	メトカルバモール
3	塩酸チアミン	ケイ酸アルミニウム	カフェイン
4	ブロムワレリル尿素	ケイ酸アルミニウム	メトカルバモール
5	塩酸チアミン	コンドロイチン 硫酸ナトリウム	カフェイン

問 26 下表の成分を含む滋養強壮保健薬（ビタミン主薬製剤）における効能効果として正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

1日量 6錠中
フルスルチアミン（ビタミンB1誘導体）として 100mg （フルスルチアミン塩酸塩（塩酸フルスルチアミン） 109.16mg）
ピリドキシン塩酸塩（塩酸ピリドキシン）（ビタミンB6） 20mg
シアノコバラミン（ビタミンB12） 60 $\mu$ g
コンドロイチン硫酸エステルナトリウム （コンドロイチン硫酸ナトリウム） 800mg

- a 関節痛、筋肉痛（腰痛、肩こり、五十肩など）の緩和
- b 眼精疲労の緩和
- c 目のかゆみの緩和
- d しもやけの緩和

下欄

- 1（a、b） 2（a、c） 3（b、d） 4（c、d）

問 27 眠気を防ぐ薬に関する次の記述について、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 眠気防止薬におけるカフェインの1回摂取量は500mg、1日摂取量は1200mgが上限とされている。
- 2 カフェインは、腎臓で水分の再吸収を促進するとともに、膀胱括約筋を収縮させる働きがあり、尿量の減少をもたらす。
- 3 眠気防止薬は、眠気や倦怠感を除去するとともに、疲労の回復にも効果がある。
- 4 眠気防止薬に小児向けの製剤はないが、小・中学生の試験勉強に効果があると誤解され、誤用事故を起こした事例も知られており、小児に使用されることのないよう注意が必要である。



問 28 鎮暈薬（乗物酔い防止薬）に配合される成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 塩酸メクリジンは、他の抗ヒスタミン成分と比べて作用が現れるのが早く、持続時間が短い。
- b 塩酸ジフェニドールは、内耳にある前庭と脳を結ぶ神経（前庭神経）の調節作用のほか、内耳への血流を改善する作用を示す。
- c 吐き気を抑えることを目的とした成分も配合されているので、つわりに伴う吐き気への対処として使用することも適当である。
- d 臭化水素酸スコポラミンは、脳への移行が少なく、肝臓で緩やかに代謝されるので、抗ヒスタミン成分と比べて作用の持続時間が長い。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	誤	正

問 29 鎮咳去痰薬に配合される生薬成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a シャゼンソウは、オオバコ科のオオバコの花期の全草を用いた生薬で、去痰作用を期待して用いられる。
- b ゴミシは、ユリ科のジャノヒゲ又はその同属植物の根の膨大部を用いた生薬で、鎮咳、去痰、滋養強壮等の作用を期待して用いられる。
- c キョウニンハ、バラ科のアズキの種子を用いた生薬で、体内で分解されて生じた代謝物の一部が延髄の呼吸中枢、咳嗽中枢を鎮静させる作用を示すとされる。
- d ナンテンジツは、メギ科のナンテンの果実を用いた生薬で、知覚神経・末梢運動神経に作用して咳止めに効果があるとされる。

下欄

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 30 次の成分のうち、鎮咳の目的で配合されないものを1つ選びなさい。

- 1 塩酸ノスカピン
- 2 リン酸ジヒドロコデイン
- 3 塩酸クロペラスチン
- 4 塩化セチルピリジニウム
- 5 臭化水素酸デキストロメトルファン

問 31 口腔咽喉薬・含嗽薬及びその配合成分に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 塩化リゾチームは、口腔咽喉薬や含嗽薬の配合成分として使用された場合であってもショック（アナフィラキシー）のような重篤な副作用を生じることがある。
- b 用時水で溶解又は希釈する含嗽薬は、調製した濃度が濃すぎても薄すぎても効果が十分得られない。
- c 含嗽薬は、食事の直前に用いるほうが殺菌消毒効果が現れやすい。
- d グルコン酸クロルヘキシジンは、レモン汁やお茶などに含まれるビタミンC等の成分と反応すると脱色を生じて殺菌作用が失われる。

下欄

- 1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、d)    4 (c、d)

問 32 胃の薬の配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a スクラルファート — 消化管内容物中に発生した気泡の分離を促すことを目的として配合される。
- b 酸化マグネシウム — 制酸成分で、瀉下薬に配合される成分でもあり、下痢等の症状に注意をすることも重要である。
- c ケイヒ — 香りによる健胃作用を期待して用いられる。
- d 塩酸ピレンゼピン — 胃液分泌抑制成分で、胃腸鎮痛鎮痙薬、乗物酔い防止薬との併用を避ける必要がある。

下欄

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 33 胃腸に作用する薬に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 安中散は、痩せ型で腹部筋肉が弛緩する傾向にあり、胃痛又は腹痛があつて、ときに胸やけ、げっぷ、食欲不振、吐き気などを伴う人における、神経性胃炎、胃アトニーに適する。
- 2 制酸成分のうちアルミニウムを含む成分については、透析療法を受けている人が長期間服用した場合にアルミニウム脳症及びアルミニウム骨症を引き起こしたとの報告があり、透析療法を受けている人では使用を避ける必要がある。
- 3 消化成分のウルソデオキシコール酸、デヒドロコール酸は、胆汁の分泌を促す作用（利胆作用）があるとされ、消化を助ける効果を期待して用いられる。
- 4 制酸薬は、胃内容物の刺激によって促進される胃液分泌から胃粘膜を保護することを目的として食後に服用することとなっているものが多い。

問 34 止瀉薬及びその配合成分に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 急性の激しい下痢又は腹痛・腹部膨満・吐き気等の症状を伴う人では、細菌性の下痢や食中毒が疑われるため、収斂成分を主体とする止瀉薬の安易な使用を避けることが望ましい。
- 2 塩酸ロペラミドは、中枢神経系を抑制する作用を持たないため、服用後、乗物または機械類の運転をしても問題ない。
- 3 オウバクのエキス製剤は、苦味による健胃作用よりも、ベルベリンによる止瀉作用を期待して、消化不良による下痢、食あたり、吐き下し、水あたり、下り腹、軟便等の症状に用いられる。
- 4 次没食子酸ビスマス等のビスマスを含む成分は、妊婦又は妊娠していると思われる女性では使用を避けることが望ましい。

問 35 次の記述により示される胃腸鎮痛鎮痙薬に配合される成分として、正しいものを下欄から1つ選びなさい。

ナス科のハシリドコロ又はその同属植物の根茎及び根の抽出物であり、抗コリン作用を示すアルカロイドに富む。

下欄

- 1 オキセサゼイン
- 2 塩酸パパベリン
- 3 ロートエキス
- 4 アミノ安息香酸エチル
- 5 マルツエキス

問 36 浣腸薬（注入剤）に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 便秘の場合に排便を促すことを目的として、直腸内に適用される医薬品である。
- 2 半量等を使用する用法がある場合、残量を再利用すると感染のおそれがあるので使用後は廃棄する。
- 3 グリセリンは、直腸内で徐々に分解して炭酸ガスの微細な気泡を発生することで直腸を刺激する作用を期待して用いられる。
- 4 直腸の急激な動きに刺激されて、流産・早産を誘発することがあるため、妊婦又は妊娠していると思われる女性では使用を避けることが望ましい。

問 37 駆虫薬に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 一度に多く服用しても駆虫効果が高まることはなく、副作用が現れやすくなるが、複数の駆虫薬を併用すると駆虫効果が高くなる。
- 2 一般用医薬品が対象とする寄生虫は、回虫と蟯虫である。
- 3 サントニンは、回虫の自発運動を抑える作用を示し、虫体を排便とともに排出することを目的として用いられる。肝臓病の人では、肝障害を悪化させるおそれがある。
- 4 パモ酸ピルビニウムは、蟯虫の呼吸や栄養分の代謝を抑えて殺虫作用を示すとされる。消化管からの吸収が少ないとされているが、ヒマシ油との併用は避ける必要がある。

問 38 強心薬の配合成分に関する次の記述について、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 センソはヒキガエル科のシナヒキガエル等の毒腺の分泌物を集めたもので、強い強心作用を示す。これが配合された丸剤または錠剤は、口中でよく噛んで服用することとされている。
- 2 ジャコウは、シカ科のジャコウジカ又はその近縁動物の雄のジャコウ腺分泌物を乾燥したもので、強心作用のほか、呼吸中枢を刺激して呼吸機能を高める作用があるとされている。
- 3 ゴオウは、ウシ科のウシの胆嚢中の結石を用いた生薬で、強心作用のほか、末梢血管の収縮による血圧上昇作用があるとされている。
- 4 ロクジョウは、シカ科のシベリアジカ等の雄の幼角を用いた生薬で、強心作用のみで、血行促進作用はないとされている。

問 39 血中コレステロールと高コレステロール改善成分の働きに関する次の記述について、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 血漿中のリポ蛋白質のバランスの乱れは、激しい腹痛や嘔吐などの症状を伴うため、生活習慣病を生じる前に自分で気付いて医療機関の受診がなされることが多い。
- 2 生体に不可欠な物質であるコレステロールの産生は、主として脾臓で行われる。
- 3 血液中の低密度リポ蛋白質（LDL）が多く、高密度リポ蛋白質（HDL）が少ないと、コレステロールの運搬が末梢組織側に偏ってその蓄積を招き、心臓病や肥満、動脈硬化症等の生活習慣病につながる危険性が高くなる。
- 4 高コレステロール改善成分は、コレステロールの末梢組織への吸収を促し、腎臓での代謝を抑える等により、血中コレステロール異常の改善を促すとされる成分である。

問 40 次の記述により示される生薬を下欄から1つ選びなさい。

キンポウゲ科のハナトリカブトの塊根であり、心筋の収縮力を高めて血液循環を改善する作用を持つ。血液循環が高まることによる利尿作用を示すほか、鎮痛作用を示すが、そのままでは毒性が高いことから、その毒性を減らし有用な作用を保持する処理を施して使用される。

下欄

- 1 ショウマ
- 2 ボウフウ
- 3 ブシ
- 4 レンギョウ
- 5 カッコン



問 41 貧血用薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選  
びなさい。

- a 鉄分の吸収は空腹時のほうが高いとされているが、消化器系への副作用を軽減  
するためには、食後に服用することが望ましい。
- b 鉄製剤を服用後、便が黒くなるのは、副作用であり、直ちに服用を中止しなけ  
ればならない。
- c コバルトは赤血球ができる過程で必要不可欠なビタミンB12 の構成成分であ  
り、骨髄での造血機能を高める目的で、硫酸コバルトが配合されている場合があ  
る。
- d 鉄分の摂取不足による鉄欠乏性貧血を防ぐためには、貧血の症状がみられる以  
前から予防的に鉄製剤を使用することが適当である。

下欄

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 42 外用痔疾用薬に配合される成分とその作用の関係について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

(成分)	(作用)
a 塩酸リドカイン	－ 抗炎症作用
b グリチルレチン酸	－ 局所麻酔作用
c タンニン酸	－ 収斂保護止血作用
d アラントイン	－ 組織修復作用

下欄

- 1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、d)    4 (c、d)

問 43 婦人薬に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 女性ホルモン成分は、長期連用により血栓症を生じるおそれがある。
- 2 女性ホルモン成分は、妊娠中に摂取しても問題はない。
- 3 当帰芍薬散は、女性の月経や更年期障害に伴う諸症状の緩和に用いられる。
- 4 ダイオウを含有する医薬品は、妊婦または妊娠していると思われる女性では、流産、早産を誘発するおそれがある。

問 44 アレルギー用薬に配合される成分に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 抗ヒスタミン成分は、肥満細胞から遊離したヒスタミンが受容体と反応するのを妨げることにより、ヒスタミンの働きを抑える作用を示す。
- 2 グリチルリチン酸二カリウムは、抗ヒスタミン成分である。
- 3 塩酸ジフェンヒドラミンを含む医薬品については、母乳を与える女性は使用を避けるか、使用する場合には授乳を避ける必要がある。
- 4 メキタジンには、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）、肝機能障害、血小板減少を生じることがある。

問 45 鼻炎用点鼻薬に配合される成分に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 塩酸フェニレフリン、塩酸ナファゾリンは、交感神経系を刺激して鼻粘膜の血管を収縮させることにより、鼻粘膜の充血や腫れを和らげる。
- b グリチルリチン酸二カリウムは鼻粘膜を清潔に保ち、細菌による二次感染を防止する。
- c クロモグリク酸ナトリウムは、アレルギー性でない鼻炎や副鼻腔炎に対しては無効である。
- d 塩酸リドカインは肥満細胞からヒスタミンの遊離を抑えることにより、鼻アレルギー症状を緩和する。

下欄

- 1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、d)    4 (c、d)

問 46 点眼薬に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 容器の先端が眼瞼や睫毛に触れないように注意しながら点眼する。
- 2 一度に何滴も点眼しても効果が増すわけではなく、むしろ鼻粘膜や喉から吸収されて、副作用を起こしやすくなる。
- 3 点眼後は、数秒間、眼瞼を閉じて、薬液を結膜囊内に行き渡らせる。その際、目頭を軽く押さえると、薬液が鼻腔内へ流れ込むのを防ぐことができ、効果的とされる。
- 4 ヒアルロン酸ナトリウムは、炎症を生じた眼粘膜の組織修復を促すことを目的として配合される。

問 47 下表の成分を含む点眼薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

ネオスチグミンメチル硫酸塩（メチル硫酸ネオスチグミン）	0.005%
タウリン	1.0%
L-アスパラギン酸カリウム	1.0%
塩酸テトラヒドロゾリン	0.05%
クロルフェニラミンマレイン酸塩 （マレイン酸クロルフェニラミン）	0.03%
イプシロン-アミノカプロン酸	1.0%

- a メチル硫酸ネオスチグミンは、結膜を通っている血管を収縮させて目の充血を除去することを目的として配合されている。
- b 塩酸テトラヒドロゾリンは、毛様体におけるアセチルコリンの働きを助けることで、目の調節機能を改善する効果を目的として配合されている。
- c 本剤は、緑内障の悪化や治療の妨げになるおそれはない。
- d 本剤を5～6日使用しても症状の改善がみられない場合は、漫然と使用を継続することなく専門家に相談がなされることが望ましい。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	誤	誤	正
3	正	正	誤	正
4	誤	誤	正	誤
5	正	誤	正	正

問 48 次の外皮用薬として用いられる抗炎症成分のうち、ステロイド性抗炎症成分を1つ選びなさい。

- 1 フェルビナク
- 2 ピロキシカム
- 3 ケトプロフェン
- 4 吉草酸酢酸プレドニゾロン
- 5 イブプロフェン

問 49 外皮用薬に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 外皮用薬は、表皮の角質層が柔らかくなることで有効成分が浸透しやすくなることから、入浴後に用いるのが効果的とされている。
- b 貼付剤やパップ剤は、患部やその周囲に汗や汚れ等が付着した状態で貼付すると、有効成分の浸透性が低下するほか、剥がれやすくなるため十分な効果が得られない。
- c 噴霧剤やエアゾール剤は、患部に十分な薬剤が浸透するように至近距離から噴霧し、連続して噴霧する時間は15秒以上とすることが望ましい。
- d 塗り薬（軟膏剤、クリーム）は、容器から直接指に取り、患部に塗布したあと、また指に取ることを繰り返して使用することが望ましい。

下欄

- 1 (a、b)    2 (a、d)    3 (b、c)    4 (c、d)

問 50 みずむし薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 硝酸オキシコナゾールは、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げたり、細胞膜の透過性を変化させたりすることにより、その増殖を抑える。
- b 塩酸ブテナフィンとは、患部を酸性にすることで、皮膚糸状菌の発育を抑える。
- c 患部が化膿している場合には、抗菌成分を含んだ外用剤を使用する等、化膿が治まってから使用することが望ましい。
- d 一般的に、じゅくじゅくと湿潤している患部には、液剤が適し、皮膚が厚く角質化している部分には、軟膏又はクリームが適している。

下欄

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	誤

問 51 歯槽膿漏薬の配合成分と配合目的の関係について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

(配合成分)	(配合目的)
a 塩化リゾチーム	ー 血液の凝固機能を正常に保つ。
b アスコルビン酸	ー コラーゲン代謝を改善して炎症を起こした歯周組織の修復を助け、毛細血管を強化して出血や炎症を抑える。
c 酢酸トコフェロール	ー 歯肉溝での細菌の増殖を抑える。
d 銅クロロフィリンナトリウム	ー 炎症を起こした歯周囲の組織修復を促し、歯肉炎に伴う口臭を抑える。

下欄

1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、d)    4 (c、d)

問 52 消毒薬に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 塩化ベンザルコニウムは、陽性界面活性成分で、黄色ブドウ球菌、溶血性連鎖球菌、カンジダ等の真菌類に殺菌消毒作用を示す。石鹼との混合により効果が高くなる。
- b グルコン酸クロルヘキシジンは、一般細菌類、真菌類に対して比較的広い殺菌消毒作用を示すが、結核菌やウイルスに対する殺菌消毒作用はない。
- c 次亜塩素酸ナトリウムは、強い酸化力により一般細菌類、真菌類、ウイルス全般に対する殺菌消毒作用を示す。
- d エタノールは、微生物の蛋白質を変性させ、一般細菌類、真菌類、ウイルスに対する殺菌消毒作用を示す。脱脂による肌荒れを起こしにくい。

下欄

1 (a、b)    2 (a、d)    3 (b、c)    4 (c、d)

問 53 禁煙補助剤（咀嚼剤）に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 噛むことにより、口腔内でニコチンが放出され、口腔粘膜から吸収されて循環血液中に移行する。
- b ニコチンは交感神経系を興奮させる作用を有するので、アドレナリン作動成分が配合された医薬品との併用により、その作用を低下させるおそれがある。
- c 口腔内が酸性になるとニコチンの吸収が低下するため、口腔内を酸性にするコーヒーや炭酸飲料などの食品を摂取した後しばらくは使用を避けることとされている。
- d 禁煙補助剤を菓子のガムのように噛むと唾液が多く分泌され、ニコチンが唾液とともに飲み込まれるので、吐き気や腹痛等が現れにくくなる。

下欄

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	正	正	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	正



問 54 ビタミン成分に関する次の記述について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 酪酸リボフラビンは、脂質の代謝に関与し、皮膚や粘膜の機能を正常に保つために重要な栄養素である。摂取により、尿の色が黄色になることがある。
- b エルゴカルシフェロールは、尿細管でのカルシウムの排泄を促す。
- c 塩酸チアミンは、炭水化物からのエネルギー産生に不可欠な栄養素で、神経の正常な働きを維持する作用がある。
- d 酢酸レチノールは、体内の脂質を酸化から守る作用を示し、メラニンの産生を抑える働きもあるとされる。

下欄

- 1 (a、b)    2 (a、c)    3 (b、d)    4 (c、d)

問 55 漢方処方製剤に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

- a 患者の証（体質及び症状）に適さない漢方処方製剤を使用したために症状が悪化することがある。
- b 漢方処方製剤の使用により、間質性肺炎のような重篤な副作用を起こすことはない。
- c 漢方薬は、個々の構成生薬の薬効とは別に、その処方自体が一つの有効成分として独立したものという見方をすべきものである。
- d 漢方処方製剤の用法用量において、適用年齢の下限が設けられていない場合は、生後1ヶ月の乳児にも安心して使用できる。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	誤	正

問 56 次の漢方処方製剤のうち、カンゾウを含まないものを1つ選びなさい。

- 1 葛根湯
- 2 小青竜湯
- 3 黄連解毒湯
- 4 香蘇散
- 5 小建中湯

問 57 殺虫剤の配合成分に関する次の記述について、( ) の中に入れるべき字句の正しい組み合わせを下欄から選びなさい。

ジクロロボス、ダイアジノン、フェンチオンに代表される ( a ) 系殺虫成分の作用は、アセチルコリンを分解する酵素 ( コリンエステラーゼ ) と ( b ) に結合してその働きを阻害することによる。高濃度又は多量に曝露した場合には、神経の異常な興奮が起こり、( c )、呼吸困難、筋肉麻痺等の症状が現れるおそれがある。

下欄

	a	b	c
1	有機リン	不可逆的	縮瞳
2	カーバメイト	不可逆的	縮瞳
3	有機リン	可逆的	縮瞳
4	有機リン	不可逆的	散瞳
5	カーバメイト	可逆的	散瞳

問 58 尿糖・尿蛋白検査薬に関する次の記述について、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 原則として、尿蛋白の検査には早朝尿、尿糖の検査には食前の尿を検体とする。
- 2 出始めの尿では、尿道や外陰部などに付着した細菌や分泌物が混入することがあるため、中間尿を採取して検査することが望ましい。
- 3 検査薬の検出する部分を長い間尿に浸すほど、正確な検査結果が得られる。
- 4 通常、尿は弱アルカリ性であるが、食事その他の影響で中性～弱酸性に傾くと、正確な検査結果が得られなくなることがある。

問 59 妊娠検査薬に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 採取した尿を放置すると、雑菌の増殖等によって尿中の成分の分解が進み、検査結果に影響を与えるおそれがある。
- 2 妊娠検査薬は、妊娠の早期発見の補助として尿中のヒト絨毛性性腺刺激ホルモンの有無を調べるものであり、その結果をもって直ちに妊娠しているか否かを断定することはできない。
- 3 尿中のヒト絨毛性性腺刺激ホルモンの検出反応は、ヒト絨毛性性腺刺激ホルモンと特異的に反応する抗体や酵素を用いた反応であり、温度に影響を受けることはない。
- 4 子宮外妊娠の場合には、検査結果が陰性となることがある。

問 60 肌の角質化、かさつき等を改善する外皮用薬の配合成分とその特徴について、正しいものの組み合わせを下欄から選びなさい。

- | (配合成分)   | (特徴)                                     |
|----------|------------------------------------------|
| a イオウ    | — 皮膚の角質層を構成するケラチンを変質させることにより、角質軟化作用を示す。  |
| b サリチル酸  | — 角質成分を溶解することにより角質軟化作用を示す。               |
| c 白色ワセリン | — 頭皮の落屑を抑える効果を期待して、毛髪用薬に配合されている場合がある。    |
| d 尿素     | — 抗菌、抗真菌、抗炎症作用を期待して、にきび用薬等に配合されている場合がある。 |

下欄

- 1 (a、b)    2 (a、d)    3 (b、c)    4 (c、d)